

Todos Pueden Hacer Reiki

por **Fumio Ogawa**¹

Corregido por Ninoslav Šafaric.

Los últimos jefes de mi familia estuvieron implicados en la terapia Reiki durante 40 años. Ellos trataron a mucha gente diariamente y fueron curados por el poder "mágico"; se dedicaron a la acción de familiarizar con Reiki a muchos miembros brindando Reiju cada mes.

Algunos pacientes dicen que se sometieron a la terapia Reiki a diario.

Pienso que cuando mi padre murió fue la única vez que vio a un médico; él murió como si fuese a dormir, sin ningún dolor. Yo intuía que era su momento. Tal era su piedad para con la familia.

Después de su muerte, su cuerpo no se endureció. Las manos y pies estaban suaves y no se sentían fríos. Todos los estudiantes sostuvieron su mano y esto los sorprendió. Él solía hablarnos sobre sus experiencias en los tratamientos.

Uno puede curar la herida muy rápido si se la trata a tiempo.

Es más fácil que los principiantes vean el efecto de lo que él ha hecho.

Solamente 15 minutos del tratamiento de Reiki hicieron estallar la parte posterior del hombro del paciente, una mujer anciana que solía venir a tratarse de fibromas; a ella le habían dicho que debía someterse a cirugía y, cuando el cirujano practicó el corte, el mioma estaba casi listo para salir y él quedó sorprendido por esto. Después de lo ocurrido, la mujer vivió larga y sanamente hasta alrededor de los 90 años.

Un hombre envejecido que luchaba con un dolor enorme y de origen desconocido, pidió telefónicamente un tratamiento a mi padre. Su médico de cabecera había intentado todo para curarlo pero resultó en vano. Cuando mi padre le dio Reiki, él sintió la necesidad de orinar al cabo de una hora; orinó mucho y fue curado después de eso. Él hombre rememoraba lo ocurrido y me informó sobre esto luego de mucho tiempo.

Hay más historias como estas que podrían ser contadas. Yo mismo, también he sido ayudado por Reiki. Estoy un poco incómodo sobre cuánto puedo describir la terapia y el Hatsurei-ho de Reiki desde las muchas experiencias de mis padres, pero decidí escribir esto con base en las lecciones de Usui Sensei y de mis mentores, junto con mi opinión personal.

Se supone que esta clase de arte se transmite verbalmente, pero en mi opinión, Reiki fluirá en cualquiera por medio de la práctica y la creencia. Reiki no sale de nuestro propio cuerpo. Más bien nuestro cuerpo es solamente un medio para Reiki.

Tengo ya años 84. Ahora me siento magnífico otra vez y puedo decir que estoy bastante sano para mi edad. Pero, la vida es limitada y me gustaría recoger mis pensamientos para Reiki mientras estoy bien. Espero al menos que la gente que está alrededor de mí y que está interesada en esto, trabajará mucho, dominará este arte y tratará a sus familias y a la gente cercana.

Después de que hubiera acabado de escribir este manuscrito, recibí una revista con una hoja de papel dentro que rezaba: "me excuso por enviarle esto tan tarde". Comprendí que era una entrevista sobre Reiki de una revista de principio del año en curso. Decidía incluir este artículo entero como referencia, puesto que describe exactamente las raíces de Reiki. Según esta nota, Reiki ahora se extiende en América.

Fuente original: Revista Twilight Zone - Octubre de 1986.

Autor: Ogawa Fumio

¹ Fumio es hijo de Keizo (o Kyoizou) Ogawa, un alumno de Usui Sensei. Nota del Documentalista.



編集部のご不思議体験レポート 28

「レイキ治療」のルーツを探る

臼井式霊気療法とは？

レポート／高井志生海

今、米国で静かなブームを呼んでいるレイキ治療。宇宙エネルギーを取り入れるこの療法は、もともと日本で誕生したものだ。日本に逆輸入された幻の霊術のルーツを探る。

★レイキは日本からアメリカに渡った

体の表面のポイントとなる部分に手をかざすだけで病気を治し、はては食物や水まで浄化することができるといふレイキ治療。

宇宙エネルギーを取り入れるその療法については、本誌でも2度（84年9月号、85年7月号）にわたり紹介したため、御存知の方も多いただろう。

さて昨年12月、私はアメリカから一時帰国していたレイキ・マスター、三井三重子先生にインタビューする機会を得たのだ。

「私が渡米したのは1978年。それまではある出版社の編集者をしていました。365日、働きづめの毎日でした。そこで、思い切

ってアメリカへ行き、自分のための勉強に専念したいと思ったわけです。

子供の頃から丈夫なほうではありませんが、長年の無理がたたつたのと、慣れない生活からくるストレスとで、もうどうしようもなく体がまいったところで出会ったのがレイキでした。

私はレイキのおかげで、体の苦痛なしに生きる。快適さを生まれて初めて知りました。

三井先生はそれ以来、熱心にレイキについて学び、半年後にはレイキ・マスターの資格を得た。これは、他のレイキを学ぶアメリカ人に比べると異例の速さだという。

そして、先生の米日の目的はよたつた。ひとつはレイキ発祥の地・日本に療法を普及させること、もうひとつはレイキのルーツ探しである。THE AMERICAN INTERNATIONAL REIKI ASSOCIATION, Inc. の発行したハンドブックによると、レイキ治療の開発者は、日本人ミカオ・ウスイ博士となっている。

さらに、これはハワイ生まれの日系二世、[ハワヨ・タカタ]さんによつてアメリカに持ち込まれた。アメリカのレイキ治療の現在の指導者、[バーバラ・レイ博士]は、このタカタさんから伝授を受けたとされるのだ。

ところが、日本における霊気治療に関しては、ほとんど明らかにされていない。三井先生は、霊気治療発祥の地に生まれた人間として、福国のためにルーツを求めた。

ようやく12月の帰国の際に、彼女は2つの収穫を手にしたのである。それはウスイ博士の菩提寺の所在と、日本各地で開かれていたらしい霊気セミナーの参加者に配布されたパンフレット、および資格免許状だった。

さっそく先生が訪れた東京・中野区の西方寺には、ウスイ博士の大きな墓があり、その表面には博士を顕彰する文が刻まれていた。

その大筋を次に記してみよう。
ウスイ博士の本名は[臼井三郎]、慶応元年（1865）8月15日、岐阜県山県郡谷合村（現・美山町）

に生まれた。幼少より苦学力行、長じて後、欧米や中国を訪問する。ある時、彼は一念発起して京都の鞍馬山に登り、21日間の修行の結果、霊気療法を感得。この療法の効果の絶大さを知つて大正11年（1922）4月、東京・原宿に学会を設けた。学会の門前は、療法の霊験を聞きつけた人々であふれかえつたという。

大正12年9月、関東大震災に際し、臼井博士は市中を逃つて被災者を救済、期せずして療法の名は世に広まる。それもあってか原宿の道場が手狭となり、学会は大正14年2月、中野に移転した。

しかし、師範集めのため、広島から佐賀へと赴いた博士は、帰途、広島県福山で発病し、そこで没する。時に大正15年3月9日。



▲亡父から靈授を受けた小川二三男さん。



▲これは、靈氣療法の秘法の一つだという。

招福り如法
鳥あり雲系
 今日又わは覺るな
 心配すな感謝して
 業とほけめ人に観如に
 刺入合すい心に念じ
 白井靈氣療法
 肇祖
 白井博士

▲意識向上のための指針。米国でも受け継いでいる。

いのだが、「宇宙エネルギーを受けとめる回路を開く」といった意味合いをもつと考えたほうがよさそうだ。小川さんはい、「靈授については口外してはならぬという不文律がありまして、残念ながら教えるわけにはいきません。ただ、以前には靈授会というのがあって、一定の修行を積んだ人が集まり、靈授を受ける会合を設けたものでした。会員になるのはわずかしくはな



▲本誌レポーターにレイキを施す三井先生。



▲背にレイキを受けると、心が安定してくる。

白井博士はなぜ靈術家を志したのか

いんです。毎月1回ほど、各地で靈氣療法の講習会が開かれていまして、今でいえば500円から1000円ぐらいの受講料を1回について払い、これに参加するともう会員でしたから。やる気のある人は、講習会に欠

さらに小川さんはもうひとつ、大きな情報を提供してくれた。日本ではすっかり消滅したかに見え

それから白井先生から直接、靈授を受けた人物は3人しかいません。先生亡き後、2代目会長に立った武富成一氏、3代目の渡辺義治氏、4代目の和波豊一氏だけで、それにしても、靈氣治療のエリート養成講座、神祕伝とはいったい何なのか。神祕伝を修得すると、尋ねるまでもなく相手の悪い箇所がわかるようになり、師範の手に、病脈が現われ、状態が察知できるのです。神祕伝には血液の変換法、性格治療法、遠隔治療法の3つがあり、遠隔治療では写真を使います。

そして私は白井式靈氣療法研究会の会長、白井博士から教えて6代目にあたるという女性に連絡をとってみた。取材には応じられな

ということだったが、どうにかもう少し具体的な点について答が得られたのは幸いだった。靈氣学会本部は震災などによって転々と移動し、会員の何人かはめいめい独自の教義をたて、新興宗教の教祖になつていくこと、さらに白井博士は、かつて後藤新平の秘書だったらしいこと。とくにこの後者は重要だ。アメリカのレイキ・ハンドブックでは、白井博士は京都のキリスト教神学校の校長となつている。しかし、三井先生の調査では京都に該当する学校は存在せず、私の調べでも彼のクリスチャンとしての横顔は現われてこなかった。三井先生はこれに関し、寺小屋的な教会をイメージするのだが、実際はどうだったのだろうか。ここで、後藤新平についてひとこと説明しておこう。彼は安政4年(1857)岩手県に生まれ、福島県の医学校を卒業後内務省衛生局に勤め、明治23年には局長に就任した。やがて日清戦争時には陸軍校務事務官長、明治31年に台湾の総督府民政長官、同39年に満鉄総長を歴任。以後、逓信大臣、鉄道院総裁、内務大臣、外務大臣などを何度か勤め、大正9年、東京市長となり、昭和4年に没している。白井博士がいつ後藤氏の秘書になったか不明だが、事実とすれば人脈の獲得に大きな力となったことだろう。それにしても、謎はまだ消えていない。関わった人々の話の断片を組み合わせると、白井博士には一般の会社員、実業家といくつもの顔がある。だが、それらはいず